

# キャンプ砂防2025開催報告

## ◆ 北 本 楽\* ◆

### 1. はじめに

「キャンプ砂防」は、砂防を専攻する大学生等に、国土交通省の砂防関係機関における就業体験や中山間地域での生活体験等の場を提供することによって、参加学生の砂防関係事業への理解を深め、砂防に対する学習意欲の喚起及び土砂災害防止意識の向上を図るとともに、国土交通省のみならず都道府県・コンサルタント・建設業・学識者など様々な立場への職業意識を形成することを目的に実施しており、平成8年度（1996年度）より実施しています。「キャンプ砂防」という名称は、元国連難民高等弁務官・緒方貞子さんの提唱で始まった、難民援助の現場を実際に体験する青年向けの研修プログラムである「キャンプ・サダコ」にちなんで命名されました。

「キャンプ砂防」は1996年度の開始以来、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となった2020・2021年度を除いて年1回開催しており、これまでに約2,400名以上の学生が参加しています。本稿では、本年度開催した「キャンプ砂防2025」についてご報告します。

### 2. 「キャンプ砂防2025」の概要

平成8年度の初開催から数えて28回目の開催となる「キャンプ砂防2025」は、大学等の夏季休暇期間を考慮し、8月上旬から9月中旬にかけて、北海道から鹿児島県まで全国20箇所の直轄砂防関係事務所で実施しています。2025年度は、天候に

も恵まれて概ね予定どおり開催することができました。本年度は、高等専門学校（4年生以上や専攻科生等、大学相当の学年に限る）の学生を加え、全国の大学・大学院、高等専門学校より計59名（男性34名・女性25名）の学生が参加しました（表-1、図-1）。参加学生は、大学3年生が42名と半数以上を占め、次いで大学4年生8名（13%）、大学院修士1年生が6名（10%）となりました。高等専門学校生からも1名が参加しました。

各事務所においては、各地域の特色を反映させ

表-1 「キャンプ砂防2025」参加者の学年構成

区分	学年	男性	女性	計
高等専門学校	4年	0	0	0
	5年	1	0	1
大学	1年	0	0	0
	2年	0	0	0
	3年	25	17	42
	4年	3	5	8
大学院	修士1年	5	1	6
	修士2年	0	1	1
	博士1年	0	1	1
計		34	25	59

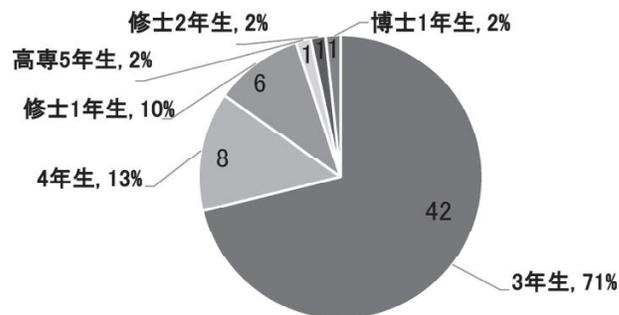


図-1 参加学生の学年構成 (59名)

\*Gaku Kitamoto 国土交通省水管理・国土保全局砂防部砂防計画課企画係長

表-2 「キャンプ砂防2025」実施内容

整備局名	実施事務所名	実施時期		実施内容	
		開始月日～終了月日	実施テーマ	実施概要	
北海道	旭川開発建設部旭川河川事務所	9月1日～9月5日	キャンプ砂防2025 in 旭川～北海道のポテンシャルを活かす砂防を学ぶ～	北海道の豊かな自然の中で、十勝岳噴火の歴史に触れ、砂防堰堤、工事現場、噴火・土砂災害観測機器等の見学体験を実施する。本体験を通じて、北海道のポテンシャル（観光、食料生産、再生エネルギー等）を活かす火山砂防事業・水系砂防事業に対する理解を深める。	
東北	新庄河川事務所	9月8日～9月12日	キャンプ砂防2025 in 月山～現場体験や地域学習を通じ『砂防事業と地域の暮らし・関わり』を知る～	砂防・地すべり事業の現場体験（砂防堰堤、UAV操作、ICT機器操作、地すべり観測、地すべり現場）、地域学習（新庄市・立谷沢川の歴史・文化、地域の生活・活性化、砂防・地すべり施設の利活用）。	
関東	日光砂防事務所	8月25日～8月29日	キャンプ砂防2025 in 日光「もうひとつの日光～雄大な自然に隠された災害の歴史～」	日光の歴史や風土を学ぶとともに、土砂災害から日光を守るために続けられている砂防事業の変遷と対策工法等について学ぶ。また、管内各流域における崩壊地対策・土石流対策等の工事現場等で現地体験を行う。	
関東	富士川砂防事務所		土砂流出の著しい富士川流域の暮らしを守る南アルプスの砂防を学ぶ	高山が連なる南アルプスの成り立ちと糸魚川-静岡構造線の関係、構造線の影響による脆弱な地質から産出される膨大な土砂の状況の現地調査、砂防事業の歴史と最新の取り組みに関する講義等を通して自然災害の猛威と砂防事業の効果について学ぶ。	
北陸	松本砂防事務所	8月25日～8月29日	山岳観光リゾート地域における砂防事業の役割と課題について学ぶ	北アルプスは日本有数の山岳景勝地として、国内外から多くの観光客が訪れるエリアである。この地域における自然環境・景観・観光客・地元（生活）に、防災という観点から砂防事業が果たす役割を、現地調査や現場体験等を通じて学ぶことにより、砂防事業の意義、今後のあり方について考える。	
北陸	湯沢砂防事務所	8月4日～8月8日	土砂災害のふりかえり	中越地震から復興への歩み、平成23年新潟・福島豪雨後の砂防施設の整備状況、斜面崩壊後の対応、講話（(例)地元有識者からの話題提供）、実務体験（(例)現場パトロール、工事進捗確認、UAV操作、生態系調査）等。	
北陸	神通川水系砂防事務所	9月1日～9月5日	キャンプ砂防2025 in 奥飛騨 奥飛騨の大自然に触れ、山間地での体験学習を通して砂防を学ぶ	奥飛騨の大自然のなか地域産業（観光）と密接に結びついた砂防事業（ハード・ソフト両面）について体験学習する（砂防工事作業体験、施設点検作業体験、自然環境調査体験、地場産業体験等）。	
中部	天竜川上流河川事務所	8月25日～8月29日	南アルプスと中央アルプスに育まれた南信州の自然に触れながら、砂防について学ぶ	太田切川源頭部調査や中央構造線博物館での体験を通して、中央アルプスと南アルプスの地形及び山々がもたらす自然の恵みについて学ぶほか、36災害をはじめとした様々な歴史から、砂防事業とともに歩んできた伊那谷の文化や暮らしについて体験する。 【実施内容】事業概要講義、工事現場見学及び体験、砂防・地すべり施設見学、伊那谷地形現地踏査等。	

整備局名	実施事務所名	実施時期		実施内容	
		開始月日～終了月日	実施テーマ	実施概要	
中部	静岡河川事務所	8月18日～8月22日	キャンプ砂防2025 in 安倍川・狩野川「砂防事業でまもるもの」	砂防事業管内（安倍川・狩野川）視察，土砂災害の歴史・地域の文化等の学習，工事現場見学。	
	沼津河川国道事務所				
中部	越美山系砂防事務所	8月18日～8月22日	キャンプ砂防2025 in 越美「揖斐川上流域の地域と砂防の役割を学ぶ」	越前と美濃一帯に広がる越美山地は，過去には1895年のナンノ谷，1965年の徳山白谷，根尾白谷の大崩壊発生と共に各地で大きな被害が発生した。崩壊地等の現地調査や工事現場視察を通じて，土砂移動のメカニズムや急峻な地形での対策等の砂防事業を学ぶ。	
近畿	紀伊山系砂防事務所	8月25日～8月29日	大規模災害からの復興の軌跡と砂防事業の将来像を描いて	平成23年紀伊半島大水害からの復興の経緯及び新たな技術を活用した砂防事業の将来像について学ぶ。紀伊半島の地形，歴史，文化にも触れ，地域とともにある砂防事業についての理解を深めることを目的とする。	
中国	日野川河川事務所	8月18日～8月22日	キャンプ砂防2025 in 大山「砂防事業を見て，聞いて，考える」	大山源頭部崩壊地調査，砂防環境調査，砂防現場実習等。	
	倉吉河川国道事務所			天神川流域の現地調査（溪流調査），砂防施設点検等。	
四国	四国山地砂防事務所	8月25日～8月29日	中山間地域の実情と砂防の役割を学ぶ！	中山間地域での生活体験・地域交流，霧石溪谷トレッキング，土石流模型実験実習，地すべり調査体験，砂防・地すべり工事現場見学等。	
九州	宮崎河川国道事務所	8月4日～8月8日	霧島山系の砂防事業について	新燃岳噴火後の対策について，現場見学や地元の体験談を聞くことで，火山噴火対応の砂防事業を学ぶ。	
九州	大隅河川国道事務所		火山との共生をめざして	桜島の火山活動の現状，砂防工事における土石流及び噴火災害に対する安全対策，NPO法人の活動を通じて桜島との共生等について，講演及び工事現場の体験を通じて桜島の火山砂防事業を知ってもらう。	
九州	長崎河川国道事務所	8月25日～8月29日	雲仙普賢岳災害からの復興と火山との共生を考える	砂防現場（無人化施工技術）・災害遺構見学，噴火災害と復興・ジオパークに関する講義等。	
九州	阿蘇砂防事務所		阿蘇の復興事業とカルデラの土砂対策について	事業概要説明，パネル説明，現場視察，体験等（現場施工・火山噴火時の緊急調査等）。	
九州	川辺川ダム砂防事務所		川辺川の砂防と現場体験学習	事業概要説明，砂防現場見学，施工管理体験。	

た独自のテーマを設定し，砂防工事・調査の現場実習や砂防に関する基礎知識の習得のほか，参加学生に砂防と地域のつながりを理解してもらうため，中山間地域の自然・文化の学習，地場産業の体験，地元自治体首長をはじめとした地域の方々との意見交換等の場を設けるなど，幅広いカリキュラムで実施されました（表-2）。

### 3. 「キャンプ砂防2025」の実施状況

各事務所における「キャンプ砂防2025」の実施状況を示します（写真-1～写真-9）。

様々な現場において調査，施工，維持管理等の実作業を学ぶ実習，中山間地域の地場産業の体験等，多種多様な実習が行われました。

また，「キャンプ砂防2025」の終了時には，参



写真-1 インフラ・ジオツーリズム (旭川河川事務所)

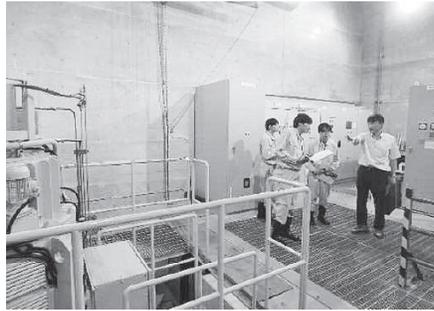


写真-2 砂防堰堤の小水力発電施設見学 (新庄河川事務所)



写真-3 砂防堰堤工事体験 (日光砂防事務所)



写真-4 ボーリングコアの観察 (湯沢砂防事務所)



写真-5 与田切川源頭部調査 (天竜川上流河川事務所)



写真-6 紀伊半島大水害の災害伝承紙芝居 (紀伊山系砂防事務所)



写真-7 別所川における魚類調査 (日野川河川事務所)



写真-8 早明浦ダム湖上で大川村長との意見交換 (四国山地砂防事務所)



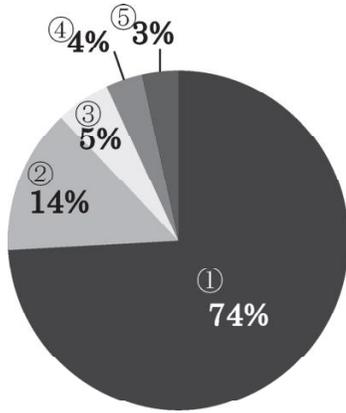
写真-9 銅製スリットの塗膜検査 (川辺川ダム砂防事務所)

加した学生へアンケート調査を実施しました (回答数59)。図-2～図-5は、アンケート調査結果の抜粋です。

参加のきっかけは、約7割が先生からの紹介によるものであり、次いで過去に参加された先輩方・友人などからの紹介が14%、学内に掲示されたポスターを見て応募が5%となっていました (図-2)。大学の先生方のお力添えは非常にありがたく、重要であることが分かります。参加前の砂防事業への理解度をみると、「よく理解していた」「少しは理解していた」の回答を合わせると約半数を占め、概ね砂防事業への理解のある学生が半数、そうでない学生が半数でした (図-3)。

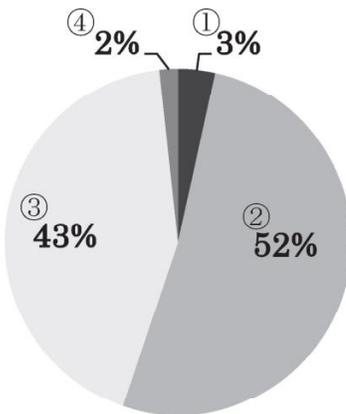
カリキュラムについては、約8割の学生が「満足」と回答しており、分かりやすく充実した内容を提供できたものと考えています (図-4)。また、参加後の砂防事業への理解度は全員が「十分深まった」と回答しており、カリキュラムに対する満足度からも開催地ごとに創意工夫に溢れた体験の場を提供できたと考えます (図-5)。参加した学生からは「砂防の仕事だけでなく、地域の方との意見交換を通して、地域のことも学ぶことができた」「地元の声をきき、県や自治体とが連携して地域に合わせた柔軟な事業を行うことが重要だと認識した」「新技術を積極的に活用し、安全かつ効率的に事業を行うことが砂防の未来を考え

る上で重要だと感じた」といった感想をいただきました。



- ①先生からの紹介
- ②過去に参加した先輩・友人等からの紹介
- ③学内に掲示されたポスターやチラシをみて
- ④自分でHPを見つけて
- ⑤その他

図-2 キャンプ砂防を何で知ったか

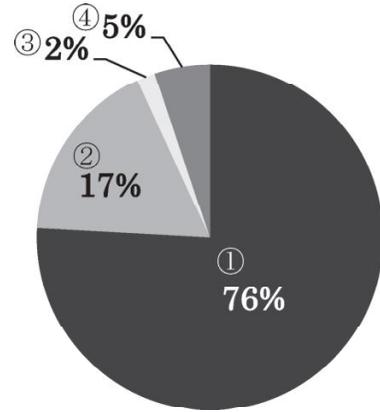


- ①よく理解していた
- ②少しは理解していた
- ③あまり理解していなかった
- ④全く理解していなかった

図-3 参加するまでの砂防事業に対する理解度

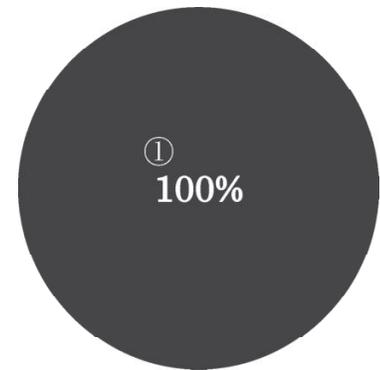
#### 4. おわりに

「キャンプ砂防」は、砂防事業の実際の現場や中山間地域での生活体験など、大学等の授業だけでは経験できない様々な体験を提供し、砂防の意義・役割を学べる貴重な機会となっています。私自身も約10年前に先輩から薦められて参加し、人



- ①満足
- ②やや満足
- ③ふつう
- ④やや物足りない
- ⑤物足りない

図-4 カリキュラム内容について



- ①十分深まった
- ②あまり変わらなかった

図-5 キャンプ砂防に参加したことで「砂防事業」への理解は深まったか

生で初めて砂防工事を自分の目で見て、そのスケールの大きさに圧倒されたことを鮮明に覚えています。今後とも、各地域の特性を活かした様々な体験の場を提供し、多くの学生の方に「キャンプ砂防」へご参加いただけることを願っています。

最後になりましたが、本年度も「キャンプ砂防」が無事に開催できたことに、ご協力頂いた地元自治体首長の皆様、各大学の先生方及び関係機関の多くの皆様に深く御礼申し上げます。引き続き、「キャンプ砂防」へのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。